

桐生市の文化財

文化財番号 350

市指定史跡

公開区分 公開

種別コード 3 04 08 00

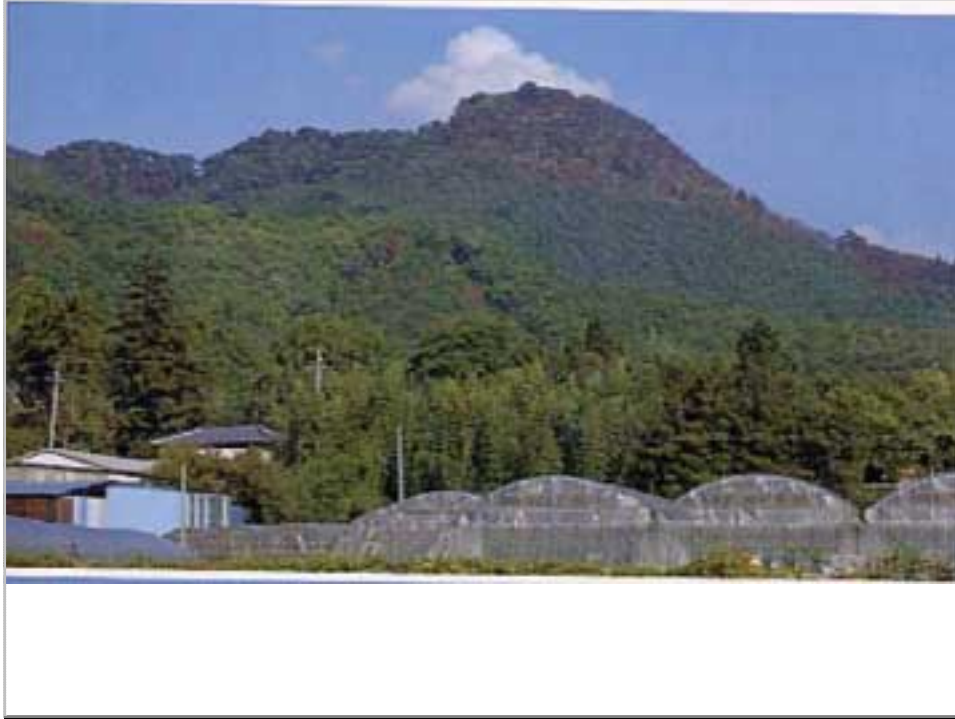
指定日 昭和46年 2月 6日

指定名称

きりゅうひしゃくやまじょうし

桐生桧杓山城址

施設名称等



所在地 桐生市梅田町一丁目地内

所有者 桐生市

管理者 経済部農林課

形態 中世山城跡

年代 観応元年(1350)築城

天正18年(1590)廃城

概要

桧杓山城は、観応元年(1350)に桐生国綱(後桐生氏初代)が築いたものとされている。その規模は大きく、桐生川扇状地の両袖の高地である西方の丸山砦、東方の浅間山砦を結ぶ下濬堀を南端として、北端の物見山砦までの一帯を城郭としていた。また、領主の居館は山麓に新たにつくり、梅原館は下屋敷とするとともに、ここを基点とする町屋を復興させた。

城跡は、標高361メートルにある本丸を斗口とし、二の丸、三の丸を柄とする柄杓型の梯郭構造で、堀切は深く、武者屯、郭馬出しなど城跡の全部が完全に残っている。

天正元年(1573)金山城主由良成繁によって桧杓山城は攻略され、桐生氏は10代桐生親綱を最後に滅亡し、由良成繁の居城となった。成繁の死後、嫡子国繁が城主となったが、天正18年(1590)秀吉による小田原攻めでは北条氏政の軍に属したため、小田原開城後常陸国牛久へ転封となり桧杓山城は廃城となった。